

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	93人	社会	93人	数学	93人
	理科	93人	英語	93人		

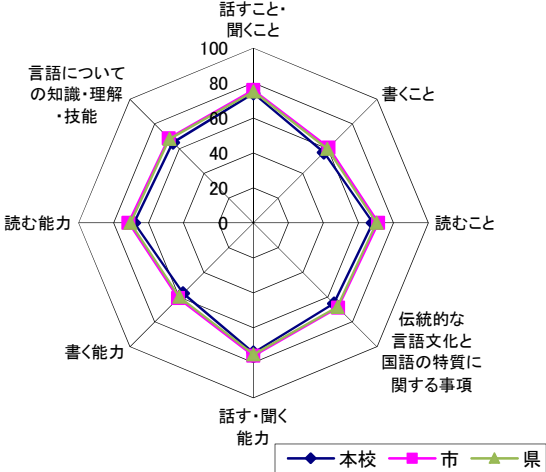
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	74.2	76.0	75.2
	書くこと	57.0	60.9	59.9
	読むこと	68.3	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	65.1	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	74.2	76.0	75.2
	書く能力	57.0	60.9	59.9
	読む能力	68.3	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	65.1	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

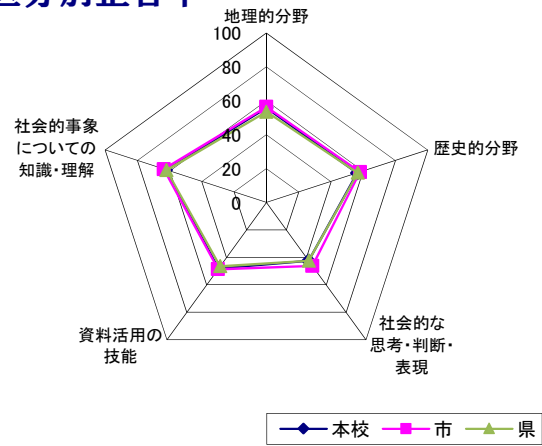
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	この領域は県や市の平均回答率に対して、ほぼ同程度である。 ○分かりやすく伝えるために話の構成を考える問題では、県や市の平均正答率より5.7.8ポイントほど高い。 ●話を聞いて、自分の考えとの共通点とその相違点を整理する問題では、県や市の平均正答率より5ポイント以上低い。 ●資料の効果的な活用方法について考える記述式の問題では、県や市の平均正答率より6ポイント下まわっている。	・相手の話を聞いて、自分の考えと照らし合わせ、整理し、さらに自分の考えをもつことは、話し合い活動の基本となる。その力が不足している結果が出ている。話を聞いて、それについて自分は賛成なのか、反対なのか、またその理由を考える時間を取り、自分の意見を発言する機会を増やして、補充していきたい。 ・資料の効果的な活用方法について考えることは、「話すこと」で必要となってくるものである。説得力のある内容にするため、どんな資料を用いると効果的か。説明的文章を学習する際、その点を良く抑え、理解させ、自分で活用していけるよう指導していく。
書くこと	この領域は県の平均正答率に対して2.9ポイント、市の平均正答率に対しては3.9ポイント低い。 ○メモを基に活動報告書の見出しに合う言葉を書く問題では県や市の平均正答率より5ポイントから6ポイント高い。 ●活動報告書の内容に合う資料を選ぶ問題では、県の平均正答率より5.7ポイント、市では7.1ポイント低い。 ●話し合いの内容を参考に、提案することをまとめて書くという記述式の問題では、県の平均正答率より8.8ポイント、市では12.2ポイント低い。	・言いたい内容を凝縮した言葉で表現することを得意としている。それは、本校独自で行っている「城中川柳」づくりや行事ごとのスローガンづくりが効果を発揮していると考えられる。 ・活動報告書の内容に合う資料を選んだり、話し合いの内容を参考に提案することをまとめる力をつけていくためには、上記の話すこと・聞くことでの指導に力を入れていきたい。また、記述式の問題の正答率が低いという結果がでている。自分の考えをノートに書く、文章を要約する、などの活動を継続して行ってきたい。
読むこと	この領域は県や市の平均正答率より2～3ポイント低い。 ○説明文の内容の理解で文章中の空欄に入る接続詞を選ぶ問題は、県や市の平均正答率より高い。 ●文章中の語句が指す内容を捉えて読む問題、文章を読んで、筆者の主張を捉える問題では、市の平均正答率より5ポイント低い。 ●描写を基に、登場人物の心情を捉えて読む問題では、県や市の平均正答率より5.7～6.8ポイント低い。	・説明的文章を読んでいく際、キーワードを押さえて読んでいく指導を行っていく。また、重要な箇所に線を引いたり、接続詞に注目しながら読みを進め、筆者の主張を捉えていく指導を進めていく。 ・文学的文章を読む際、描写に表れる登場人物の心情を十分考えさせ、想像させ、感じ取らせながら授業を進めていくよう努める。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	この領域は県の平均正答率より、2.9ポイント、市より3.4ポイント低い。 ○熟語の組み立てについての問題は、県の平均正答率に対して3.6ポイント、市の平均正答率に対しては0.7ポイント上回っている。 ●漢字の読み書きの力がついていない。歴史的仮名遣いが理解されておらず、読めていない。	・漢字の読み書きの学習については、漢字学習帳や漢字の小テストを行い力を入れている。書けなかった漢字の覚えなおしや学んだ漢字・語句を普段の生活で使う機会を増やしていくよう指導していきたい。 ・歴史的仮名遣いに関しては、古典を学習する際、歴史的仮名遣いの原則を説明したうえで、繰り返し音読をし、読めるようにしていく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	55.8	56.4	53.5
	歴史的分野	56.3	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	42.4	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	48.1	48.6	46.5
	社会的事象についての知識・理解	62.3	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

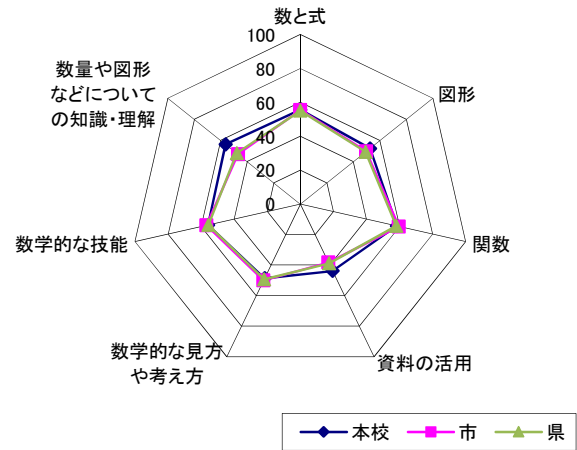
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	宇都宮市の平均正答率より0.6ポイント低く、栃木県の平均正答率より2.3ポイント高い。 ○「世界の地域構成」の平均正答率は62.9%と宇都宮市や栃木県を上回っている。また「世界の諸地域(南アメリカ)」の平均正答率も60.3%と宇都宮市、栃木県を上回るなど良好な結果が得られた。 ●「世界各地の人々の生活と環境」や「世界の諸地域(北アメリカ)」は宇都宮市の平均正答率を下回る結果となった。 学習を行う上で、繰り返し利用する「世界の地域構成」の学習内容や学習して間もない学習内容の定着率は高いものの、学習してから時間がたっているものの正答率が低い傾向にある。また知識理解や資料活用 of 技能に大きな差が見られないものの、思考・判断・表現にかかわる正答率が宇都宮市の平均より3.7ポイント低くなっている。	・今年度よりパラプリントを用いて、単元テストも行うことにした。昨年度までは、授業前に行う小テストだったため、単元を見渡して知識等の定着を行っていく。 ・デジタル教科書を使うことで視聴覚に訴える授業の実践を行い、生徒の興味関心を高めていく。 ・すでに学習した内容の定着のため、地理的分野では、日本地図や世界地図の掛図を利用する。現在学習している地域と、以前に学習した地域を同時に見ながら、以前の学習内容を、現在の学習内容に置き換えて質問することで、知識等の定着を図っていく。
歴史的分野	宇都宮市の平均正答率より1.7ポイント低く、栃木県の平均正答率より0.3ポイント低い。 ○「歴史のとらえ方」の平均正答率は宇都宮市や栃木県と大きく変わらない。また「鎌倉時代～室町時代」の平均正答率は52.1%と宇都宮市、栃木県を上回るなど良好な結果が得られた。 ●「縄文時代～古墳時代」や「飛鳥時代～平安時代」は宇都宮市や栃木県の平均正答率を下回る結果となった。 地理的分野と同様に、学習して間もない学習内容の定着率は高いものの、学習してから時間がたっているものの正答率が低い傾向が見られた。また思考・判断・表現にかかわる問題の正答率が低くなっていることも特徴である。	・今年度よりパラプリントを用いて、単元テストも行うことにした。昨年度までは、授業前に行う小テストだったため、単元を見渡して知識等の定着を行っていく。 ・デジタル教科書を使うことで視聴覚に訴える授業の実践を行い、生徒の興味関心を高めていく。 ・すでに学習した内容の定着のため、歴史的分野では、歴史の大きな流れを意識した指導を行っていく。常に大きな流れを意識させることで、日本の歴史を一つの流れとしてとらえさせたい。 ・思考・判断・表現力の育成は短時間ではできないものの、単元を通じた課題解決学習の実践や、毎時間の学習目標の解決に向けた学習を展開していく。課題や目標を意識させるとともに、振り返りの学習を通して、考えたことを言葉として表現できる生徒の育成を図っていく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	55.6	55.4	55.0
	図形	52.6	49.8	49.2
	関数	58.4	59.6	58.0
	資料の活用	43.8	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	48.6	50.0	49.3
	数学的な技能	55.8	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	56.4	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

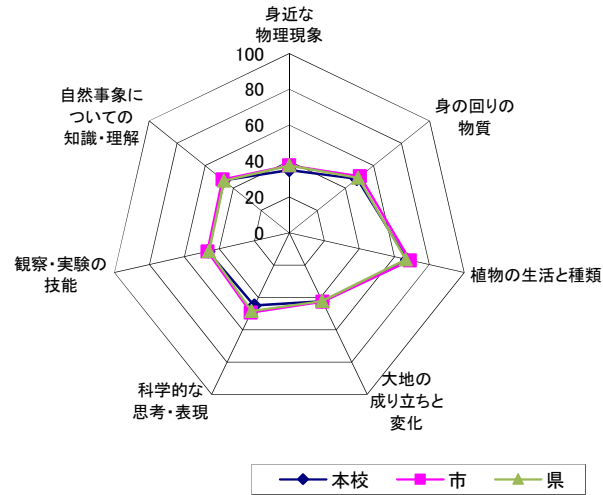
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	この領域は県や市の平均正答率に対して、ほぼ同程度である。 ○正負の数の計算(四則混合)の問題では、県や市の平均正答率よりも高い。 ●活用の問題では、県や市の平均正答率よりも下回っている。 ●自然数を選ぶ問題では3割の生徒が不正解であった。	・今後、授業中などでつまずきそうな計算ができたときには、その都度計算の仕方を説明するなどして確認していく。また、日常生活に結びつけて話すことにより、興味を持たせたい。 ・生徒たちに、問題を与えて思考力を高めていく時間を確保するようにする。また、授業の最初に基礎計算のプリントを取り入れていく。
図形	この領域は市の平均正答率よりも2.8ポイント高い。 ○ねじれの位置にある辺を答える問題では、県や市の平均正答率よりも8ポイント以上高い。 ○直方体にかけたひもを展開図に書き入れる問題では、県の平均正答率よりも5.3ポイント高い。 ● $\triangle ABP=1/2\triangle ABC$ となる点Pを作図する問題では、市の平均を大きく下回っている。	・ICTを活用して視覚的に訴えていくことで興味関心や意欲を高めていく。また、かけたひもを展開図に書き入れる問題では、実物を用意し実際に触れて学習することで理解を深めていく。 ・必要に応じて既習事項を確認しながら授業を進めていく。
関数	この領域は県の平均正答率に対して、ほぼ同程度である。 ○与えられた座標に合う・の位置を選ぶ問題では、ほとんどの生徒が正しく理解し、正答率も88.8ポイントと非常に高い。 ●面積が一定の長方形の縦と横の長さの関係を式に表す問題では、市の平均正答率より大幅に低い。	・式で表す問題では、文章中に線をひき、重要なポイントを確かめながら式を立てていくようにする。 ・式と表、グラフなどを関連させて考えさせることにより、多角的に問題をとらえ、様々な視点から解決できるようにしていきたい。
資料の活用	この領域は市の平均正答率よりも5.5ポイント高い。 ○度数分布表からある階級の相対度数を求める問題では、県や市の平均正答率よりも9ポイント以上高い。 ○資料の活用の問題では、すべて県や市の平均正答率より高い。	・数学的に表現された事象について、いろいろな読みとり方があることを理解させ、様々な考え方・判断で問題演習を行っていく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	35.0	37.6	37.5
	身の回りの物質	48.2	50.5	49.1
	植物の生活と種類	67.4	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	42.4	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	45.0	49.4	48.5
	観察・実験の技能	46.4	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	46.8	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

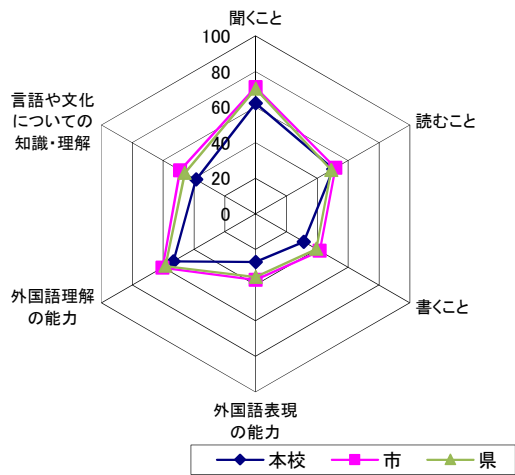
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	この領域の正答率は、県の正答率より2.5ポイント、市の正答率より2.3ポイント低い。 ●光と音に関する内容の正答率は、県・市より低い。 ●力と圧力に関する内容の正答率は、県・市より低い。	・基本的な知識は定着しているが、それをもとに思考・表現する力が定着しきれていない。実験・観察を行う際、レポート作成を通して結果の正確な記録と結果をもとにした考察の指導を行い、思考力・表現力の育成を図っていく。
身の回りの物質	この領域の正答率は、県より0.9ポイント、市より1.8ポイント低い。 ○物質のすがたに関する内容の正答率は、県より1.1ポイント高い。 ●水溶液に関する内容の正答率は、県・市より低い。 ●状態変化に関する内容の正答率は、県・市より低い。	・水溶液・状態変化の単元では、粒子モデルをもとに思考することが重要である。モデルを効果的に活用し、実際に起こっていることをミクロの視点で理解できるように促す。 ・化学単元で使用する実験器具の使い方は定着しているので、今後出てくる実験器具も、1人1人が正しい手順で使えるように指導する。
植物の生活と種類	この領域の正答率は、県より0.8ポイント高く、市より2.6ポイント低い。 ○植物の体のつくりとはたらきに関する内容の正答率は、県より2.4ポイント高く、市と同程度である。 ○植物の仲間に関する内容の正答率は、県より2.6ポイント高く、市と同程度である。 ●顕微鏡の操作手順に関する問題の正答率は、県・市より低い。	・顕微鏡の操作手順が定着していないので、顕微鏡を使用するたびに手順を確認していく。また、その手順になる理由も一緒に確認する。 ・植物のはたらきに関する問題では、実験の方法が十分に理解できておらず、結果から考察することも苦手なので、「なぜこの方法で実験を行うのか」「結果から何が考えられるか」といったことを、順を追って丁寧に指導していく。
大地の成り立ちと変化	この領域の正答率は、県・市とほぼ同程度である。 ○火山と地震に関する内容の正答率は、県より3.4ポイント、市より2.7ポイント高い。 ●地層と重なりと過去の様子に関する内容の正答率は、県・市より低い。	・この領域では、教科書の図版だけではなく、視聴覚教材や標本をできるだけ取り入れた授業を展開する。 ・柱状図に関する問題では、基本的な知識と科学的な思考力の両方が要求されるので、普段の授業から、小テストの実施等を通して知識の定着を図り、課題・発問を工夫して科学的な思考力の育成を図りたい。

宇都宮市立城山中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	62.2	71.1	70.2
	読むこと	50.4	51.8	49.1
	書くこと	31.3	41.6	39.4
観点	外国語表現の能力	27.0	37.1	35.5
	外国語理解の能力	53.3	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	38.6	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	この領域の平均正答率は、県平均正答率よりも低い。 ○単文の聞き取りについては、正確に答えられている。また、まとまった英文の聞き取りもきちんと理解はしている。 ●絵に関する英文の聞き取りについては、正答率が県や市の平均からは7ポイントほど低くなっている。	・Yes/No で答えられるものについては何で聞かれているのか(Is, Are, Do, Does, Willなど)正確に聞き取れるよう、授業の中でも指導していく。 ・重要な情報や聞き取ったものを、メモをする習慣を身に付けるよう、引き続き練習させていきたい。
読むこと	この領域の平均正答率は、県平均正答率よりも高い。 ○まとまりのある英語や長文の読み取りについては、適切な答えの選択ができています。 ●文法の理解ということについては、正答率の平均が県の平均よりも7ポイント、市の平均よりも10ポイントも低い。	・日頃の授業でも、教科書等の英文の中に出てくる指示代名詞が指す内容を正確に把握させ、より理解を深めていくようにする。 ・授業中や宿題として、練習問題を数多く解くことによって、文法の理解と定着を図るようにしていきたい。
書くこと	この領域の平均正答率は、ほかの領域と比べても低い。 ○単語を正しい語順に並べかえて英文を作ることはできている。 ●テーマや場面が設定され、一定の条件の中での英作文については、平均正答率が県や市の平均よりも低い。	・英単語などの語彙力を増やすように、単語テストなどの指導を継続して行っていく。 ・英語の基本的な語順の指導を徹底し、様々な場面や条件の中で、今までに学んだ文型を用いて表現する練習を行っていく。

宇都宮市立城山中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家の人はあなたがほめてもらいたいことをほめてくれてると感じている生徒の割合が高い。また、家の人と将来のことについて話をしている生徒の割合が高い。
○学習について、疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたいと考えている生徒が多い。また、できるだけ自分ひとりの力で課題を解決しようとしている生徒も多い。
○誰に対しても思いやりの心をもって接している生徒が多い。
○学校の宿題は、自分のためになっていると感じている生徒が多い。
○地域や社会で起こっている問題やできごとに関心があると答えた生徒が多い。
●難しい問題にであうとよりやる気が出ると感じている生徒の割合がだいぶ低い。
●毎日同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合が県や市の割合を下回っている。
●友達の前で自分の考えや意見を発表することは苦手な生徒が多い。
●自分の行動や発言に自信を持っていると答えた生徒の割合は県や市の割合を下回っている。
●家庭学習で学校や塾のきめられた宿題のほかに、自分で考えた勉強をしていると答えた生徒の割合が県や市の割合を大きく下回っている。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業における学習課題の提示	授業の初めに、本時の学習の課題を示し、見通しを立てて学習に取り組めるようにしている。	「授業では、授業の目標(めあて・ねらい)が示されている」の質問に肯定的に回答した割合が、昨年度と比べて約3ポイント増加している。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「宿題プラスワン」を地域学校園での合い言葉とし、自主的な家庭学習への取組を習慣化させるようにする。	「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」に肯定的に回答した生徒の割合は50%であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
家庭で宿題の他に自分で考えた勉強をしている生徒の割合が50%と低く、市の平均より11ポイントも低かった。	家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	学校からの宿題については、地域学校園で共通して取り組んでいることであり、小学校と連携して各家庭での理解を促し、自ら学ぶ姿勢を育てていく。